

報道関係者各位  
プレスリリース

2016年2月3日  
アスタミューゼ株式会社

**「ロケット・宇宙航行システム」市場における科研費獲得ランキング（大学・研究機関別）  
～総額約 57 億円・1 位は JAXA で約 2 億 1000 万円。千葉大学・埼玉大学もランクイン～**

総務省によると、企業の好業績などを背景に、企業や大学・研究機関などの 2014 年度の科学技術研究費総額が前年度比 4.6%増の 18 兆 9713 億円となり、2 年連続の増加で、リーマン・ショック前の 07 年度（18 兆 9438 億円）を上回って過去最高を更新しました。また、国内総生産(GDP)に占める比率も 3.9%と過去最高を記録しています。

一方で、国立大学に対して支給される「運営費交付金」の削減方針を受けて、多くの大学が競争的資金である科研費（科学研究費助成事業）の応募・採択に目標を設定するなど、大学側の科研費に対する意識が変わりつつあります。（※1）

この状況下で、アスタミューゼは「投資」と「共感」が未来を創ると考え、どのようなテーマが共感を呼び、どのような形で投資を集めているのかを独自に分析しています。

そこで今回は、有望成長市場のうちの一つであり、総額約 57 億円の科研費を獲得している「ロケット・宇宙航行システム」市場における大学・研究機関別の科研費獲得ランキングを発表します。

※今後、科研費獲得ランキング発表予定の市場

- ・ 2月15日：「仮想現実（AR・VR・SR・MR）・3D 投影」市場
- ・ 2月22日：「機能性食品/飲料」市場

(※1) 1月27日付 日刊工業新聞 News ウェーブ 21 より

## ■ 「ロケット・宇宙航行システム」市場における大学・研究機関別 (※2) の科研費獲得ランキング(※3)

(※2) 研究代表者が所属する大学・研究機関

(※3) 2006～2015年の交付分。2016年1月時点でデータ取得

順位	大学・研究機関名	件数	主な研究テーマ	配分額 (円・計画含)
1	宇宙航空研究開発機構	98	ペタフロップス級計算機に向けた次世代CFDの研究開発	1,373,390,022
2	東京大学	92	複合材構造の損傷許容設計実現のための光ファイバセンサ監視システム	838,828,000
3	東北大学	48	惑星大気圏飛行のための実気流風洞試験技術の研究開発	591,180,000
4	名古屋大学	31	Fly By Light Power: 低パワーによる飛躍的な高速空力性能の向上	480,848,000
5	九州工業大学	20	宇宙システムの高電圧化に向けた超小型衛星による帯電・放電現象の軌道上観測	372,830,000

6	東京農工大学	6	ヘリコン源を用いた先進的無電極プラズマロケットエンジンの研究開発	239,122,000
7	九州大学	28	ホールスラストの耐久性向上に関する研究	138,350,000
8	北海道大学	11	高レイノルズ数域におけるC AMU I型ハイブリッドロケットの燃料後退機構の解明	120,670,000
9	神戸大学	12	宇宙太陽発電衛星の実用発電送電パネルの開発とハワイでの実証マイクロ波無線送電実験	114,570,000
10	大阪府立大学	15	大型高精度宇宙スマート構造システム設計のための計算機および試験検証の融合	100,126,000

※千葉大学・埼玉大学もランクイン。50位までのランキングを成長市場・企業情報メディア『astavision』上でご覧になれます。

URL: [http://astavision.com/contents/news/1813/?from=pt160203\\_1](http://astavision.com/contents/news/1813/?from=pt160203_1)

1位の宇宙航空研究開発機構（JAXA）は中橋 和博航空本部長らによる「ペタフロップス級計算機に向けた次世代CFDの研究開発」（2億1424万円）など98件で約13億7339万円を獲得。

2位の東京大学は武田 展雄教授らによる「複合材構造の損傷許容設計実現のための光ファイバセンサ監視システム」（1億0322万円）など92件で約8億3882万円を獲得。

3位の東北大学は浅井 圭介教授らによる「惑星大気圏飛行のための実気流風洞試験技術の研究開発」（5005万円）など48件で約5億9118万円を獲得。

4位の名古屋大学は佐宗 章弘教授らによる「Fly By Light Power：低パワーによる飛躍的な高速空力性能の向上」（2億2373万円）など31件で約4億8084万円を獲得。

5位の九州工業大学は趙 孟佑教授らによる「宇宙システムの高電圧化に向けた超小型衛星による帯電・放電現象の軌道上観測」（1億5080万円）など20件で約3億7283万円を獲得。

6位の東京農工大学は都木 恭一郎教授らによる「ヘリコン源を用いた先進的無電極プラズマロケットエンジンの研究開発」（2億0891万円）など6件で約2億3912万円を獲得。

7位の九州大学は山本 直嗣准教授らによる「ホールスラストの耐久性向上に関する研究」（2197万円）など28件で約1億3835万円を獲得。

8位の北海道大学は永田 晴紀教授らの「高レイノルズ数域におけるCAMU I型ハイブリッドロケットの燃料後退機構の解明」（4290万円）など11件で約1億2067万円を獲得。

9位の神戸大学は賀谷 信幸教授らの「宇宙太陽発電衛星の実用発電送電パネルの開発とハワイでの実証マイクロ波無線送電実験」（1872万円）など12件で約1億1457万円を獲得。

10位の大阪府立大学は小木曾 望准教授らの「大型高精度宇宙スマート構造システム設計のための計算機および試験検証の融合」（2561万円）など15件で約1億12万円を獲得。

#### ■ 科研費（科学研究費助成事業）について（※4）

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

(※4)日本学術振興会 HP より引用

## ■「ロケット・宇宙航行システム」市場について

アスタミューゼでは企業情報・特許情報などのビッグデータ分析により、今後成長が見込まれる有望市場を「180の成長市場」として分類しており、そのひとつが「ロケット・宇宙航行システム」市場です。

宇宙へ行くことができるロケットの発明は19世紀後半から20世紀にかけて行われ、第2次世界大戦中の軍事目的でのロケット・航空技術の開発や冷戦状態にあった米ソ間の対立などを背景に、主に国家主導でロケット開発競争が進められてきました。開発の過程で技術を蓄積した民間企業や、豊富な資金力を背景に宇宙開発技術者を集めたベンチャー企業等は近年、衛星の打ち上げや国際中ステーションへの物資輸送、さらには人類の長年の夢である宇宙旅行までもビジネスとして始めるようになりました。

アスタミューゼでは、「ロケット・宇宙航行システム」市場の2025年世界市場規模を200億米ドルと予想しています。

■「ロケット・宇宙航行システム」市場における技術・特許・企業・アイデア情報をご提供します。

アスタミューゼでは、大学・研究機関の研究テーマ以外にもベンチャー企業、技術・特許、アイデアに対する情報をご提供しております。また、「ロケット・宇宙航行システム」以外にも 179 の有望成長市場に関して同様の情報提供が可能です。（※本プレスリリースのファイル内に、参考資料として「アスタミューゼが定義する 180 の成長市場」一覧を記載しております）

本サービスは有料のデータ提供サービスとなっており、ご指定の市場における出願・牽制情報、注目すべき企業・技術といったフォーマットでご提供しています。ご利用希望の企業・大学・研究機関の方は下記問い合わせ窓口よりご連絡ください。また、納品データの活用方法に関する解説、データのカスタマイズやより高度な分析をご要望の場合も、対応させていただきますのでお気軽にお問い合わせくださいませ。

**お問い合わせ・サンプルご請求はこちら：**

[http://www.astamuse.co.jp/contact/corporation/?from=pt160203\\_1](http://www.astamuse.co.jp/contact/corporation/?from=pt160203_1)

#### ■アスタミューゼ株式会社について

世界中の課題を解決し、未来を創るプラットフォーム『astamuse.com』（<http://astamuse.com/>）を提供すると共に、法人向けサービスとして、自社の課題を解決するためのイノベーションに関わるコンサルティングサービスを展開しています。

- ・ 代表者：代表取締役 永井 歩
- ・ 設立：2005 年 9 月
- ・ 所在地：東京都千代田区大手町二丁目 6-2 日本ビル 4 階
- ・ URL: <http://www.astamuse.co.jp/>

#### 【本件に関する問い合わせ先】

アスタミューゼ株式会社

担当：亀久

mail: [press@astamuse.co.jp](mailto:press@astamuse.co.jp)